

2025年12月10日
株式会社ディー・ディー・エス

DDSの「多要素認証基盤 EVEMA」を岩手県盛岡市が導入 ～顔認証を活用した二要素認証と Active Directory 連携により セキュリティ強化と管理工数削減を実現～

指紋認証をはじめとした、さまざまなセキュリティ・ソリューションを提供する株式会社ディー・ディー・エス（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：池要輪、以下 DDS）は、「多要素認証基盤 EVEMA（イヴエムエー）」（以下 EVEMA）が岩手県盛岡市役所（以下盛岡市）の職員用端末における Windows ログオン認証および各種システムへのログイン認証のために導入され、安定運用をしていることを発表いたします。

盛岡市では、早くから情報システムへのセキュリティ対策に取り組まれていましたが、これまで利用していた静脈認証システムが Windows バージョンアップにより別途対応が必要になったこと、また Active Directory （以下 AD）と認証システムの二重管理による運用工数が課題となっていました。そこで、全職員へのノート PC 配布を機にコスト面からノート PC 内蔵カメラを活用できる顔認証を次の認証要素として検討。EVEMA が顔認証を利用できること、また AD と簡単に連携できる点に魅力を感じ、導入を決定されました。

現在、盛岡市の三層の対策は「 β' モデル」です。マイナンバー利用事務系、インターネット接続系と LGWAN 接続系で全職員約 2,400 名が PC の Windows ログオン認証に EVEMA を使用しています。EVEMA の導入に合わせてパスワードルールを厳格化し、三層それぞれで使用 PC の種類により、顔認証（生体）もしくは ID カード（所持）とパスワード（記憶）の二要素認証でセキュリティ強化を実現されています。

EVEMA の導入により Active Directory との連携で一元的なユーザー管理が可能となり、メンテナンスに係る業務負担の削減を図ることができました。また、VPN 接続時の認証も EVEMA でおこなう、LGWAN 接続系で利用する複数のアプリケーションに対してシングルサインオン設定をおこなうなど、セキュリティ強化と職員の業務効率の改善を実現できたと評価をいただいています。



顔認証とパスワードの二要素認証でセキュリティ強化

EVEMA を導入することで、顔・指紋・静脈などの生体認証の他、マイナンバーカードなどの所持認証を活用した Windows ログオン認証、アプリケーション等へのログイン認証が可能となります。また、生体や IC カード、パスワードなど他の認証要素と組み合わせることで「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に示される二要素認証に対応します。

DDS は今後も、多要素認証ソリューションの導入を通じて、地方公共団体における情報セキュリ

ティ対策を支援してまいります。

《製品概要》

■多要素認証基盤 EVEMAについて

「EVEMA（イヴエムエー）」は、各種システムに対するパスワードでの本人認証を生体（指紋、顔、手のひら静脈）、ICカード（Felica、MIFARE、マイナンバーカード）、パスワードを用いた多要素認証方式に置き換える認証基盤です。Active Directoryとのシームレスな連携で組織・グループに対する柔軟な設定を可能とし、エンタープライズシステムの認証基盤における自在な設定を可能にします。

(ホームページ：<https://www.dds.co.jp/ja/product/3199/>)

《株式会社ディー・ディー・エスについて》

DDSは、指紋認証ソリューションのリーディングカンパニーとして創業以来、産学連携による技術開発に積極的に取り組んでおります。多様化する情報セキュリティ・ソリューション・ニーズに対応可能な「万能認証基盤 Themis」、「多要素認証基盤 EVEMA」、「二要素認証基盤 EVEFA」、および「クラウド認証サービス EVECLOUD」などの情報セキュリティ製品の開発・販売を行っております。

(ホームページ：<https://www.dds.co.jp/ja/>)

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社ディー・ディー・エス

セールスコミュニケーション部

Email : sales@dds.co.jp

※Themis、EVEMA、EVEFA、EVECLOUDは株式会社ディー・ディー・エスの登録商標です。その他記載されているロゴ、会社名、製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。

※プレスリリースに掲載されている内容、製品・サービスの価格、仕様、お問い合わせ先、その他の情報は、発表時点の情報です。その後予告なしに変更となる場合があります。また、プレスリリースにおける計画、目標などはさまざまなリスクおよび不確実な事実により、実際の結果が予測と異なる場合もあります。あらかじめご了承ください。